

BenQ

短焦点プロジェクター

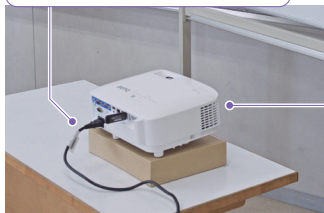
導入レポート

BUNRI'S SEIBU GAKUEN
BUNRI ELEMENTARY SCHOOL
西武学園文理小学校**西武学園文理小学校**

SEIBU GAKUEN BUNRI ELEMENTARY SCHOOL

短焦点スマートプロジェクター **EW800ST**

iPadや学校内ネットワークとの無線接続は圧倒的に相性が良く、配線の必要が無い。手軽に教材を投影可能。



2.6kgの軽さで、手軽に持ち運びが可能。

その後、据え置きタイプの他社プロジェクターも導入してみましたが、設置場所が教室の真ん中

ICT教育の進む文理小 選んだのはBenQの 短焦点プロジェクター

西武学園文理小学校は、埼玉県狭山市にある小中高一貫教育を行う私立小学校です。心・知性・国際性に教育の重点を置き、東大・京大をはじめ全国トップクラスの超難関国立・私立大学へ毎年多くの合格者を輩出しています。教科指導では「最高の環境で基礎学力を育成する」ことを目指し、早くからICT教育を実践。児童1人1台のiPad支給に加え、創立当初からプロジェクターによる授業も行っており、昨年からは新たにBenQの短焦点プロジェクター「EW800ST」を導入しました。実際に同校で教壇に立つ教務主任 川上健吾先生に、BenQ導入の経緯や導入後の変化についてお話を伺いました。

西武学園文理小学校
教務主任**川上 健吾** 先生

導入前 の 課題

天吊りプロジェクターではプロジェクターの移動が叶わず、メンテナンスに手間とコストがかかっていた。また、配線が多くデバイスの接続に時間と手間がかかっていた。

導入後 の 成果

プロジェクターの持ち運びが可能になり、必要な場所で必要な時にプロジェクターを使用できるようになった。また、メンテナンスにかかる手間を大幅に軽減。加えて導入コストも抑えられ、ワイヤレスでミラーリングできるため、教材や児童のiPadを簡単に投影できるようになった。

使いたいとき、
使いたい場所で。
短焦点
プロジェクターで
理想の教育環境を
実現したい

本校の創立は19年前のこと。開校当時から各教室にプロジェクターを導入し、児童らの学びの一助として活用してきました。当時はまだ世の中のICT化が進んでおらず、教室にプロジェクターを導入している小学校も珍しかったのを記憶しています。当時使用していたのは、天吊りタイプのプロジェクター。物理的に邪魔にならず、児童らが触って火傷する心配もなかったの

から85cmの距離に投影できる短焦点プロジェクターで教卓への設置が可能になりました。性能は他社に劣らず、価格面でも「これなら我々が必要としている分だけ揃えられる」と、まさに求めていたものにぴったりで、実際にデモ機を使用してみたところ2.6kgと軽く、簡単に持ち運べると感じました。

導入前に他社の機種とも見比べたのですが、児童らに支給しているiPadや学校内のネットワークとの相性が圧倒的に良かったことも決め手になりました。元々使っていた他社のプロジェクターは専用アプリをインストールしなければならなかったのですが、それも不要。アプリを立ち上げる必要がないので操作も非常に簡単かつ素早く行えるようになりました。

また、高輝度で色味にメリハリがあり、教室の明かりがついた状態でもはっきりと映えるのも魅力でした。今まで使っていたものより鮮明になり、席によって見えにくいようなこともありませんでした。

教科書をスキャンしホワイトボードへ投影。書き込みを加えることで、児童の顔が上がって反応が分かり指示が出しやすい授業に。



すが、次第に「プロジェクターの移動ができないこと」をネックに感じるようになってきました。例えば、プロジェクターのない少数人数ルームを使用する際や同じ教室内の別の場所へ投影したいときは、天井に固定されていることがデメリットに。加えて、メンテナンスでは専門業者を呼び脚立を組んで、と大掛かりなものになっていました。ちよと調子が悪いから見てほしいだけなのに、業者にきていただくのに数日、部品取り替えが必要になった場合は数週間、その教室ではプロジェクターが使えなくなってしまうといったのです。また、長年使うと経年劣化により部品交換などが必要になりますが、その金額も高額になっていました。





「児童にとっても扱いやすい」「電源コードを挿すだけで使える」導入後に気づいたさまざまなメリット

実際に導入してみても、さまざまなメリットを感じています。まずは児童たちが直接プロジェクターにアクセスできるようにしたこと。これまでは児童がiPadで作成したものを投影する際、先生が児童のiPadにアクセスしてデータを取り出すか、児童から教員へデータを送ったのち、教員のタブレットから投影するしかなく、時間と手間がかかっていました。現在はミラーリングの機能を使用し、児童のiPadから直接投影できるように。その結果、参考になる答えを書いた児童に対し「○○さん、ちよつと投影してみよう」というような、生きた授業をすることが可能になりました。

導入当初は「児童に投影手順を教えらるだろうか」と思っていました。が、今の子どもたちは教員が驚くほどコンピュータリテラシーが高く、教える以前からミラーリングを使える子も少なく

視覚的に理解を促すプロジェクターと、書く力を伸ばす板書を織り交ぜ活用。



持ち運びやすく、場所を選ばない。最短3ステップでミラーリングできるため児童もプロジェクターを扱えるようになり、とても満足しています。

iPadからのミラーリングは最短3ステップ。児童のファイルを教員がまとめる手間が無くなる。



児童の回答をミラーリングすることで全員へ共有。先生が児童の画面を解説できる授業に。

ありませんでした。ミラーリング自体は「スワイプして、こをタッチして」とたった3ステップでできるので、一度教えただけで全員が使いこなせるように。現在4年生以上の学年で使用していますが、おそらく低学年でも可能だと感じています。

また、アンドロイド内蔵でインターネット接続が容易なため、特に社会の授業で活用できると感じています。授業では、Google Earth を使って「行ったことがあるおすすめの世界」を発表するといった取り組みも。「夏休みに行った日原鍾乳洞」や「東大寺」などが登場し、皆でどんな場所なのかのあたりにあるのかを見たりしています。他に人気だったのは、理

ことも多く、掲示物を都度切り替える場合、紙だと印刷・張り替え・保管が必要になりますが、プロジェクターの場合は投影物を切り替えるだけなので、非常に効率的ですね。

私たちは長年にわたりさまざまなプロジェクターを活用してきましたが、プロジェクターを使うことで授業の作り方が変わり、児童の理解が格段に進むと感じています。特に図や動画で説明する方法は小学生にかなり有用で、視覚に訴えかけることであらゆるものがイメージしやすくなると実感しています。

科の授業で行った「先生の体へ人体模型をマッピングする授業」。先生の服の上に人体模型を投影し、どこに内臓や骨があるかを教えたのですが、生身の人に投影することでよりイメージが掴みやすくなったようです。

先生目線のメリットは、移動先の教室サイズを問わなくなったこと。これまでは「プロジェク



人体模型を生身の人に投影することで、イメージが掴みやすい授業に。

ただし、プロジェクターに100%依存するのではなく、板書も織り交ぜつつ行う授業こそが理想だと私たちは考えます。板書を使うことで、書く力・ノートを作る力を伸ばす機会を作り、理解を促すところはプロジェクターを活用する、という使い分けをしています。

最後に、導入をご検討される企業学校様にお伝えしたいのは「プロジェクターはお金をかければかけるほどいいものになるが、無駄にいいものを買うのではなく、自分達が必要な機能から選んだ方がいい」ということです。

視覚的に教えることで子どもたちの理解度は格段に向上するプロジェクターの活用メリット

現在は主に授業や説明会で使用していますが、今後は廊下で

導入にあたっては実際の使い勝手や自校のネットワークとの相性も見えておいた方が安心です。実機を借りて使用感を試した上で、最適なものを選ぶといいですね。

今回導入された製品の詳細ページはコチラから



短焦点
スマートプロジェクター
EW800ST